

夏山に冬がひそむ

梅雨が明ければ夏山シーズン本番！ですが、夏山には秋冬の寒さがひそんでいます。山では、高さが100メートル上がるごとに、気温は約0.6度下がります。1000メートルの山なら6度、2000メートルの山なら12度低くなり、平地の9月、10月の気温に当たります。山のふもとでは半袖で過ごせても、高い山では長袖に上着が必要な寒さということです。富士山のふもとにある御殿場の8月の平均気温は23.8度、一方、標高3775メートルの富士山頂では6.8度ですから、



秋を通り越して真冬の厳寒です。

また、風速が1m/s強まると、体感温度は約1度低くなるといわれています。山では強い風が吹きやすく、気温10度で風速が10m/sを超えれば、体を感じる温度は氷点下になります。冷たい雨や霧に濡れるとさらに体温を奪われ、体力を著しく消耗するおそれがあります。夏山だからと油断せず、予想外の悪天にも対応できるよう、雨具と防寒着を忘れずにお持ちください。登山の前に気象情報をしっかり調べ、無理をしないことも大切です。

日本気象協会 折坂章子

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

理事長 : 大島慎子(筑波学院大学学長)
顧問 : 丹羽 晟(元理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長 : 岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、加納隆(元朝日新聞経済部記者)
事務局長 : 杉行夫(理事)、事務局次長: 堤るり(理事)
支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、

【団体会員】(2012年07月30日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アンテス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしや、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャンドゥ、(株)熊谷組、(社)くらしのリサーチセンター、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサバパサパパリミテッド、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTJB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーディングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベーター(株)、医療法人社団同友会、トヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベーター(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルホリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルリックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんファイオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)、

編集後記

7月27日開かれた「松尾さんお別れの会」に参加した。故人ゆかりの人たちが約1000人集まり、故人の交友関係の幅広さを示した。筆者は、松尾さんがJN協会の理事長に就任されてから、情報紙取材・編集のため公式行事には、ご一緒した。彼は全国各地で開く協会のシンポジウム、講演会には必ず出てきて、参加者への資料配りまで率先して行う姿が、今も目に浮かぶ。事務次官まで務めた人が、と最初のうちは信じられなかった。協会運営の基盤となる会員募集にも、大いに力を注がれた。

出張先では、懇親会は早めに切り上げ2次会にもほとんど行かない。酒、タバコを嗜まず、趣味はゴルフ、マージャンだったとか(ご一緒したことはないが)、その席で仲間が吸うタバコの煙が、死にいたる病につながったのだろうか。そんないい方がこんなに早く、と残念至極だ！

松尾さん理事長在任の10年余、JN協会は全国に支部を持つ組織にまで育った。残された我々で、なんとか協会を守りたいものだ。(加納)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：大島慎子(JN協会理事長)

編集長：加納 隆(JN協会副理事長)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第84号 発行日2012年7月30日

Contents

神戸フォーラム開く、松尾さんお別れの会	1
神戸フォーラム内容、大島新理事長挨拶	2
ウズベキスタン大使、鉄道の話③	3
ラスベガスの誕生、東北一人旅	4
世界遺産物語(ペトラ遺跡)、脱原発へ	5
城下町と観光、NEWSPOT	6
北陸新幹線とフリーゲージ、観光立国セミナー	7
天気の話(夏山の冬)、編集後記	8



神戸港からクルージングする「コンチェルト」(2138トン)。コース料理、バンド生演奏を1時間45分楽しめる。洋上からの神戸の夜景は絶景。

海事・観光立国フォーラムin神戸開く

日本海事センターとJAPAN NOW観光情報協会共催の「第12回海事・観光立国フォーラムin神戸2012」(国土交通省、観光庁後援)は、7月13日午後3時から神戸市の神戸商工会議所神商ホールに約300名が参加し開催。

主催者を代表して小幡政人・日本海事センター会長が開会の挨拶、続いて来賓の矢田一郎・神戸市長及び和田昌雄・国土交通省神戸運輸監理部長が歓迎とフォーラムにける期待を述べた。

このあと、講演会に移り、観光庁長官の井手憲文氏が「最近のインバウンドの動向と政策」と題して講演、東海旅客鉄道相談役(JN協会副理事長)の須田寛氏が「国際観光都市・神戸の魅力」について述べ、日本船長協会会長の小島茂氏が「船乗りと観光」と題して、半生記を語った。なお、講演の半ばで地元の岩田弘三・JN協会神戸支部長(神戸商工会議所副会頭)が、挨拶した。(講演概要は2面)

講演会の後、隣接の「クオリティホテル神戸」で懇親会が開かれ、多数が参加し意見を交換した。



故松尾道彦氏お別れの会



さる5月26日に急逝された松尾道彦JN協会前理事長のお別れの会が、7月27日(金)に東京・平河町の日本海運クラブで開かれ、1000名を超える参会者が松尾氏の遺徳を称えた。

発起人の一人である小幡政人・日本海事センター会長が「松尾元次官は、次官退任後、JAS副社長、日本鉄道建設公団総裁、日本海事センター会長はじめ、数多くの団体に参画、活躍された」と別れの言葉を述べ、また同期入省代表の寺嶋潔氏が「彼は同期の中心的存在で、同期会にはほぼ皆出席だった」など、その人柄を語った。最後に、ご長男の松尾慎吾氏が謝辞を述べた。

松尾氏は、昭和35年運輸省(現国土交通省)に入り、運輸事務次官退任後、日本鉄道建設公団総裁、海事センター会長等を歴任。またボランティアで、ほぼ10年間にわたってJN協会理事長として、観光立国推進の先頭に立ち活躍された。ご冥福を祈る。

加賀市で観光立国フォーラム実施へ

JN協会は、石川県加賀市で「北陸新幹線の延伸と温泉地の観光振興」についてのフォーラムを、須田寛・JR東海相談役の講演を中心に、10月22日(月)開く予定。

2015年春季予定の東京一金沢開業に続き、敦賀への延伸も決まったことから、加賀市を中心とした温泉地の賑わいを取り戻す方策を探る。JN協会理事でもある寺前・加賀市長とともに詳細を検討中。

なお、恒例の北海道・札幌での開催は現時点では未定だが、開催を求める声が協会に寄せられている。

海と観光は密接な関係

井手憲文・観光庁長官

今年4月から観光立国推進の指揮を執る井手氏の前職は国交省海事局長で、この日のフォーラムにはうってつけの人材。

用意した豊富な資料をもとに、最近のインバウンドの動向等について、詳しく説明。まず、今年3月に出された「第2期観光立国推進基本計画」の主な内容について、とくに海外からの観光客増加には「満足度」という観点が必要であることを強調、また国際会議の招致に力を入れる、など述べた。

昨年の大震災、円高などの影響で落ち込んでいるインバウンドについては、次第に回復基調にあり、2011年に622万人だった訪日観光客を、数年後には2500万人に増やす命題の先頭に立つ覚悟を述べた。

また、神戸に関しては、豪華客船クルーズが世界的に増える傾向にあるので、神戸寄港を促進するよう地元の皆さんの熱意を支援していく、と語った。

観光資源『海』を活用しよう

須田寛・J R 東海相談役

観光立国推進のリーダーの一人として全国を駆け回っている須田さんは「神戸ほど観光資源が揃った街は、そうない。神戸の人は、そのことをよく知り、活用すべき」と提言する。

まず、須田さんは観光の内容が、かつての引率型見物観光から、グループや個人中心の学習型、体験型観光に変わりつつある現状を指摘。新しい観光のあり方テーマ別観光の姿を語り、それに地元が対応する必要性を強調する。

神戸に関して言えば、それは「海」、「港」。観光地として有名な京都、奈良には、寺院や仏閣は豊富だが、「水」が欠けている。神戸には、それがあつたから、海や港を中心に据えた観光を考えるべき

だと、指摘する。観光資源としては、その地の歴史そして産業、景観が挙げられるが、「海」はこの3つの観光要素の結節点にあることを認識してほしいと強調。

海に関しては、産業としての漁業、造船、健康促進のためのマリンスポーツ、そして船を移動の手段としてとらえるのではなく、船旅そのものを愉しむクルーズがある。神戸の人は、その良さを認識し、もっと全国に情報発信する必要がある、と述べた。

(これに関して、地元観光人を代表して挨拶した岩田さんは「最近、神戸港から小クルーズをした。船が岸壁を離れ、沖に向かうとき、六甲の山並み、街の明かりが海と調和して、涙が出るほど感動した」と述べていた。)

船乗りの一生は、即「観光」人生

小島茂・日本船長協会会長

小島氏はタンカーなどいろんな船の船長を務めるなど42年の船乗り生活を送った人。「世界各地を訪問しており、わが人生はまさに観光人生ともいえよう」と冒頭に語る。

海にまつわる数々の経験談は、思わず聞く人を引き込むようなエピソードに満ち満ちている。なかでも、(第二次世界大戦で、日本守備隊が玉砕した)アッツ島の近くを航行する際には、5つの握り飯と2合の酒を海に投げ入れるという話は、感動的でさえあった。「荒れる海を鎮めたまえ」と念じて行うのだそうで、これまで10回近く経験、有名な荒海が見事静かになったこともあったとか。スクリーンに写る荒波、画面が変わると凧のようなシーン。その語り口には、唸らされた。

最近出かけたコペンハーゲンでの世界船長協会の総会では「3・11大地震からの復興(港湾関係)は86%進み、原発事故による放射能も影響が少なくなりつつある。是非日本に来て」と強調した由。まさに、「日本観光大使」と言えるのではなからうか。

は今年の4月半ば、後任の理事長を受けるようにとのご依頼でした。何度かのお電話。最後には、ご自身の体調のことに触られたので、ついにお受けするとお答えしたのです。ご遺志について、協会事務局や地方自治体、関係者の方々と一緒に活動を継続して次代に繋ぐつもりです。

私が60年代後半にアメリカで生活していた時、Discover America という国内観光プロジェクトがたちあがり、また海外へは、Europe 5 Dollars a Day 「ヨーロッパ1日5ドル旅行」のガイドブックが出版されました。これが日本で旧国鉄のデイスカバージャパンや、ガイドブック「地球の歩き方」のオリジナルであることは有名です。70年代後半にはドイツも「美しい国ドイツ」のキャンペーンを開始し、ロマンチック街道を日本に紹介しました。その後、日本でも街道観光が動き出していることは、ご承知の通りです。

観光戦略や観光政策は、このように海外から手法を得た時期はありましたが、いまや日本の地域、官民すべての協力でオリジナリティーに溢れた旅をつくり、世界に発信する時代になっています。皆さまと力をあわせ、さまざまな形の観光の姿を発信していきたいと思ひます。

松尾前理事長のご遺志を継いで

～観光立国推進のお手伝いを！～



J N 協会理事長 大島慎子 (筑波学院大学長)

この度、NPO法人 JAPAN NOW 観光情報協会の理事長に就任いたしました。思えば12年前、日本初の観光関連のNPO法人設立という先駆的な計画に賛同し、この協会に参加した経緯があります。

当時、私はルフトハンザドイツ航空の広報担当者として、日本の観光客をドイツへ送るなどの仕事をしておりアウトバウンド全盛でした。しかし、これからは、観光立国宣言をしたドイツのように、積極的に外国人観光客を招聘する、また、国内旅行の需要を喚起する時代をつくるという先駆者的な考え方に惹かれたのです。

日本も観光立国宣言後に観光庁も設置され、観光は地域活性化の原動力、そして地域経済の担い手であることが周知される時代になりました。J N 協会を率いていらした松尾道彦前理事長から、突然の電話をいただいたの

NPOから提案します

フリーゲージトレインと北陸新幹線

JN協会理事 加賀市長 寺前 秀一

北陸新幹線の敦賀延伸時には、湖西線及び北陸本線へのフリーゲージトレインの導入が計画されています。ホームでの対面乗換方式よりは一歩進んだものと歓迎すべきです。沿線関係自治体及び政府はこれを暫定的なものとして、最終的にはフル規格の新幹線を整備することを共通認識とすることにより政治的決着を図っています。なお、北陸新幹線ルートについて自らの方針を述べないでフル規格新幹線の早期完成を政府に迫る一部自治体関係者の対応ぶりには同意できません。ルートが決まらないから早期完成にめどが立たない側面もあるのです。

加賀温泉郷のお客様は、関西三割強、中京二割弱です。東京は一割以下です。従って、中京圏のお客様のことを考えると、北陸新幹線は米原ルートがベストです。加賀温泉郷から東京に行くには、金沢・高崎経由、敦賀・米原経由いずれも便利な地域であります。リニア新幹線が完成すれば東京には名古屋経由が最も便利になりますから、北陸新幹線は米原

観光立国セミナー

日韓交流の懸け橋となって

李 容淑 (リ・ヨンスク) 大阪経大客員教授

在日20年、日韓両方で教鞭をとる。(株)リンカイという観光関係の社長でもある。日本酒の唼き酒師の資格を持つ日本通。VISIT JAPAN大使でもある。

第78回セミナー、6月7日(木)実施。

まず、韓国と日本の観光に掛ける熱意の差を指摘。韓国観光公社の職員は約1000人、これに対応するJ N T O の陣容は100人級。その違いが外国人観光客の差となり、韓国は日本の3倍(人口当たりの比率)となっている。

もうひとつ。若い人の自国文化、歴史の学び方に関して、日本人は自国文化を知らなさすぎる、という。かつて奇跡とまで世界で称賛された日本だったが、昔日の面影はない。「若者よ、元気な日本を取り戻せ」と叱咤。

ハイテク機に落とし穴？

日本航空パイロット 杉江 弘氏

ジャンボ機14,000時間と言う世界記録の持ち主で、150万人を運び無事故という杉江氏が「最近のハイテク機はコンピュータ制御に頼り過ぎ、ジャンボ機に無いヒューマンエラーを生む恐れがある。ローテク化に戻す必要がある」と指摘。杉江氏は、もう一つの話題として、日本人のあるべき姿を提言する。詳細は、8月10日発売の「日本人はなぜ足元を見られるのか」(アスキー新書)を読んでいただくと、詳細が分かる。第79回、7月20日講演。

JN協会主催の観光立国セミナーの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存しています。

【会員募集】都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

駅接続がベストと考えます(現在でも「こだま」には余裕があります)。

北陸新幹線敦賀延伸時における並行在来線について、北陸新幹線全面開通を推進する立場からは、J R 西日本からの経営分離に同意することは当然の判断です。しかしながら並行在来線の経営を引きうけるか否かの判断は別問題です。市民、県民の税金を使う以上、バス高速輸送システム(B R T)等との比較を行った結果を基に判断すべきものです。貨物列車を通過させるために在来線が必要であれば、荷主、貨物会社等が維持すればよいと考えます。利用運送人は他交通機関も利用できますから、在来線が廃止されて最も困るのは逃げ場のないJ R 貨物です。そのJ R 貨物を国策として残すべきか費用対効果を丁寧に分析すべきです。沿線の他の自治体が在来線の旅客輸送存続を希望する場合に、加賀市だけが参加しないということも非現実的ですから、加賀市長としてどこまでこの点を主張してゆくかということが難しい課題です。

× × ×

★ ヒカリエ見学会実施

J N 協会の10名が6月20日(水)、「くらしのリサーチセンター」が主催した『ヒカリエ』の見学会に参加。この施設は、東京・渋谷の4月開業した商業施設。

なかでも、7月オープンの『東急シアターオーブ』(劇場)が目玉のひとつ。『ヒカリエ』の11~16階を占め、客席は約2000。ミュージカル中心の劇場で、オーケストラのような音楽会には向いていないそうだ。

舞台を見下ろす3階席は、高所恐怖症の人にとってはいかがかな、と感じた。

★ 「炭鉱(やま)の機関車」展

恒例の「鐵楽者展」は、炭鉱(やま)の機関車を撮った写真展。8月17日から9月2日まで、東京・雑司ヶ谷の「三愚舎」ギャラリーで開く。

鐵楽者展は、J N 協会の杉・事務局長も主要メンバーで、世界各地の鉄道のかつての雄姿を、写真で紹介するもので、毎年開いている。

今回は、炭鉱から石炭を運び出す鉄道の、昔日の面影を、そこに住んでいた人たちの生活とともに、写しだしている。

お問い合わせは、責任者の杉行夫(090-2160-7341)まで。

★ 観光人材育成「廃止」へ？

事業仕分けの一環として、国土交通省は地域の観光振興を担う人材育成事業を廃止する方向という。

事業開始から8年経っても成果が見えないという理由からのようだが、観光振興を国の大方針としている中での廃止は、いかなるものか？人材育成のやり方についてチエの出し方が足りないのでは、との反論もある。

会員の投稿を歓迎します～情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2012年9月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。締め切りは、9月15日です。

城下町と観光 -27

徳島県・牛岐城

阿波南部の守りの要

道善から香宗我部親泰へ

JN協会参与 長宗我部 友親

徳島駅からJRの牟岐線に乗り、海沿いの田園地帯を南下すると、小松島の少し先に阿南市がある。爽やかな緑風を受けて、電車を降りると、駅の正面に喫茶店があり、美味しいコーヒーを飲ませてくれる。素朴な町である。

JR阿南駅から徒歩で10分ほどで、牛岐城址に着く。城山と石垣の一部しか今は残っていないが、その城山に登ってみると、阿南の街と境界の山並みがきれいに見えて、この城が戦国時代には、南阿波の要衝であったことが、ひと目で分かった。

牛岐城は、阿南市富岡町殿町にあり、至徳年間（1384年から1386年）に細川氏の家臣であった新開実重が、年代は不明であるが築城したといわれる。その後、天正10年（1582年）に城主であった新開実綱（道善）が、阿波の海部から侵入した長宗我部元親の攻撃を受ける。

しかし、道善の抵抗は激しく、攻めあぐねた元親は一計を案じて、四国統一の後には牛岐城主の地位を安堵したうえ勝浦郡を与えるという条件で和議を申し出て、道善を丈六寺に呼び出し、酒宴を開く。そして、隠れていた元親の家臣が、道善を襲った。



丈六寺

NEW SPOT

in japan 33

東北観光博

「東北ぜんぶが博覧会場だ。」とうたう「東北観光博」が3月18日から開催中だ。東北観光博実行委員会(委員長：国交相、副委員長：東北6県知事)のもと期間は2013年3月末まで。3・11大震災で減退した観光客を呼び戻そうと東北全体を博覧会場と見立て28のゾーンをPRする。各ゾーンの観光案内所などに設けた「旅のサロン」でもらう無料の「東北パスポート」を加盟店で提示すると特典があるほか、各サロンを回ってスタンプを集めると抽選でリンゴ、米、牛タン、比内地鶏燻製、地酒など名産品や旅行券、宿泊券が当たる。

28のゾーンは下北、青森浅虫温泉、津軽半島、弘前、白神、八戸、二戸久慈、十和田八幡平、秋田男鹿、田沢湖角館、横手湯沢、盛岡雫石、花巻遠野、北上西和賀、平泉一関奥州、最上、庄内、銀山

この謀殺は、後の世にまで「丈六寺の血天井事件」として阿波の国には言い伝えられている。

道善亡き後牛岐城には、元親の弟の香宗我部親泰が入り、阿波南部の要とした。蜂須賀時代になり、徳川幕府の政策で、「一国一城」となり、牛岐は阿波九城の一つとして、蜂須賀家の家老の賀島主水正政慶が城代となった。



現在の阿南市は、発光ダイオード(LED)の生産が盛んで、「光の街」としてのイメージづくりをしている。



魚市場に近く観光客で賑わう復興屋台村・気仙沼横丁

温泉、上山天童山形蔵王、米沢おきたま、大崎鳴子、松島、仙台秋保作並、白石宮城蔵王、ふくしま、郡山磐梯熱海、会津、いわき。

太平洋沿岸の宮古、釜石、陸前高田、気仙沼、南三陸、石巻、相馬などは「被災の程度等の要因から」(同博事務局)含まない。発災から1年以上経ち、状況に応じて観光客を受け入れており、今後は三陸、宮城沿岸、福島沿岸の3地域の情報発信を促進するという。地域の人的交流を意識し、被災体験の語り部を含む被災地ツアー、復興市・復興商店街の買い物や、瓦礫処理、農地整備、家屋清掃、海岸清掃、イベント支援など、物見遊山とは形を変えた観光発信だ。(文・写真 林 莊祐)

東京
震が関発の最新情報
国土交通省・総務省・財務省

シルクロードの遺跡がたっぷり

サマルカンド(青の都)はゼヒもの

ファルフ・トゥルスノフ

ウズベキスタン共和国駐日大使



94年タシケント国立経済大学卒、ウズベキスタン共和国外務省に入省。英国などの勤務を経て05年局長、08年カザフスタン大使、12年から現職。39歳。

ー今年、日本に来られたばかりですが、どんな印象ですか？

直前まではカザフスタンの大使を3年してきました。カザフスタンはウズベキスタンのそばにあり、そんなに違和感はありませんでした。日本は初めてであり大きな国であるのでビックリしました。工業大国であり、いろいろな製品が街にあふれている事に驚きました。ウズベキスタンにはこんな製品はまだありませんから。これから工業にも力を入れて行き日本に追いつくようにしていきたいと思えます。

ーウズベキスタンの観光の目玉は何でしょうか？

日本人にとって絹は身近なものです。わが国はシルクロード(絹の道)の中継点としての役割を果たしてきました。昔の遺跡が多い事が観光の目玉でしょう。サマルカンド、ブハラ、ヒヴァ、テレメズなどの歴史のある街が多いのです。

特にお勧めはサマルカンドでしょう。「青の都」といわれており、青色のモスク(寺院)、ミナレット(塔)、メドレッセ(神学校)など見られます。また、ヒヴァは城壁都師として有名でその中にあるイチャン・カラは、91年にウズベキスタンとしてはじめてユネスコの世界遺産に登録されました。宗教都市のブハラは、イスラム教の中心地になっています。

ー日本から観光で行く人は何人ぐらいでしょうか？

大体、年間1000人ぐらいでしょうか。まだ、多くありませんよ。もっと来て欲しいと思っています。そのためにいろいろなイベントをするようにしています。今年6月11日から群馬県前橋市で「ウズベキスタン文化・芸術ウィーク」を行いました。日本ウズベキスタン外交関係樹立20周年を記念して、元ウズベキスタン駐日大使の小畑紘一さんが講演をしました。ウズベキスタンの絵画や陶器、写真、民族衣装、民芸品を展示しました。いろいろな機会を見てこうした催しを開いていきたいと思っています。ウズベキスタン国内では伝統ある文化祭「アスル・ラル・サドシ」(世紀のこだま)を毎年場所を変えて開いています。10年はヒヴァのイチャン・カラで行いました。

ー食べ物、おいしいものがあるんでしょうか？

小麦栽培が盛んなので、ナンがあります。中央アジア風のピラフである「プロフ」、トマトや玉ねぎなどの野菜と酢で漬けた肉を串刺しにした「シャシリク」、トマトが入ったうどん「ラグマン」などあります。果物が美味しいのです。ブドウ、メロン、スイカ、アプリコット、ナシ、りんご、さくらんぼ、さくらなど日本にあるものもあれば中央アジアしかないものもあります。飲み水は日本人には向かないので、ペットボトルなどの水をお勧めいたします。日本からは8時間掛かりますが、時差は4時間であり、是非来て欲しいですね。

(聞き手・経済ジャーナリスト 阿部和義)

「鉄道」と「観光」③

鉄道が持つ三つの役割

JN協会副理事長・須田寛氏 (JR東海相談役)

鉄道は観光に関して次の3つの役割を果たしている。即ち

- ① 観光地へのアクセス(交通手段)としての役割。
- ② 観光(価値・効果)を鉄道によって高める。
- ③ 鉄道(利用)そのものが観光資源となる。

本稿では上記の②の役割について考えてみたい。

(二)観光(価値・効果)を高める。

鉄道はその利用によって観光の付加価値を高める役割を果たす。

即ち観光の幅を広げ観光に変化(バリエーション)を与える。即ち旅(観光)にいろいろ(変化)を添えることによって観光客の受ける観光効果をより高めることができる。

第一に、観光地への往復に用いる交通手段として異なった機関(往一航空機・復一鉄道、往一フェリー・復一鉄道等)を選択することによって同一機関で往復する場合よりも観光の幅が広がることである。いわば立体的観光というべきか往復いずれかに他の交通手段とともに鉄道を用いることによって鉄道利用のもたらす独特の旅情が際立ち全体としてその観光の付加価値を高めることができる。

第二に鉄道利用に伴う諸サービスが観光に厚味を加えその効果を高めることである。

例えば駅、車内における「駅弁」がある。近年空港での「空弁」高速道のサービスエリアでの「速弁」(はやべん)など他交通機関にも類似のサービスが登場して来たが、走る列車内で食べる「駅弁」の観光に果たす役割は際立っており「駅弁」を楽しむために鉄道を利用する観光客も少なくない。このほか駅頭での観光客向けの諸サービス(荷物預かり、レンタカー、貸自転車、特産品のショッピング等)も鉄道の観光効果を高めるものとして、大きい役割を果たしている。

第三に観光地内での移動についてである。この場合も鉄道、徒歩、バス、自動車等が考えられるが、これらを鉄道と結んで一体として利用するとき地域内の移動という行為そのものも観光効果を高めるため大きい役割を果たす。鉄道を中心に、一定地域内の交通手段を自由に選べる鉄道のフリーきっぷの盛行はこのことを物語るといえよう。

アメリカこぼれ話 ㊹

「ラスヴェガスの誕生」

J N協会理事 北村 嵩

ラスヴェガスが現在のような世界有数の巨大娯楽都市になるきっかけは、1946年に東海岸のマフィアから送られたバグジー・シーゲルが、当時としては画期的な豪華ホテル、“フ ラミンゴ・ホテル”をオープンさせてからである。しかし、それ以前のラスヴェガスがどのような街であったかはあまり知られていない。

ラスヴェガスが市としてスタートしたのは1905年で、鉄道が開通し、駅が出来たのがきっかけである。ソルトレーク・ロスアンジェルス間の鉄道を通すために、古くからの水汲み場として知られていたラスヴェガスに駅が設置されたのである。蒸気機関を発動させるための水が必要であるからで、この当時の人口は1500人、駅前には30室のホテル・ラスヴェガスが建設されたが、まだ水道も電気もなかった。

そもそも、この盆地の中の砂漠地帯は南部パイウテ族が重宝していた水汲み場であり、1821年にメキシコが独立した後、1848年のメキシコ戦争の結果アメリカ領になるまではメキシコ領であった。19世紀前半には毛皮商人の隊商がこの地の小さなオアシスを発見し、地図に記載されるようになったが、本格的に白人がこの地域に入植したのは1855年で、モルモン教徒約30名がパイウテ族への布教と農業指導のためであった。しかし教団はほぼ2年で引き上げ、しばらくはインディアンの自治に任されていたが、1865年、オクタヴィウス・ガスという金鉱堀が仲間と共にモルモン教団が去った跡地に再入植し「ラスヴェガス牧場」と命名したのが地名の始まりである。1900年には人口が約25人であったが20世紀初頭に近郊で金、銀、銅が見つかり、鉄道の開通もあって活況を呈し始めた。住民は鉱山や鉄道・道路敷設の労働者が多く、ギャンブルに対するニーズも多かったが1910年に州政府により禁止されていた。何度か州政府にギャンブル合法化案が提出されたが否決されたが、遂に1931年に総括的ギャンブル合法化案が認められ、同時に近くで“フーヴァーダム”の建設が始まった。このフーヴァーダムの建設により、多数の労働者が住むことになり、人口が増え、経済が活性化し、水や電気が安定供給されることになり、街が大発展するきっかけになった。他にも、十分な電力の供給を背景に、暑い砂漠地帯に必要なエアコンが普及したこと、鉄道のほかに自動車の普及と航空機の定期便化など交通手段が発達したこと、そして何よりもラスヴェガスに幸運だったことは、近くのロスアンジェルスに映画の中心地としてハリウッドが誕生し、ショウ・ビジネスが発展したことで相互に影響を与え合う関係になったことである。

訪日外国人観光客が震災前の水準へ

2012年の目標達成はギリギリ？

日本政府観光局(J N T O)によると、今年6月の訪日外国人観光客の数は、前年同月比で58.6%増え68万6600人と月別では初めて大震災前の水準を上回った。ただ、国別では韓国は絶対数では15万2100人と依然トップだが、前年比では15.1%減となっている。関係者は、放射能への恐れに加え円高、ウォン安が響いているとみられる。第二位は中国で、前年に比べ25%も増加し12万9600人となっている。また今年上半年(1~6月)で見ると、過去最高だった2010年に比べ、3.6%下回っているが、回復傾向ははっきり見えてきたようだ(右表)。

東北一人旅

小田急電鉄(株) 顧問 利光 國夫
(前小田急グループCEO)

毎年夏になると思い出すのは、大学二年生の夏休みに独りで行った東北旅行のことだ。その頃私は青年期によくある鬱状態になって、日常を離れて独りになりたいという気持ちが強くなり、東北旅行を思い立ったのである。なぜ東北なのか明確な理由は無かったが、石川啄木、宮沢賢治といった人たちを生んだ東北には、何か日本の原風景を思わせるものがあったのだろう。これが東海、関西、九州といった地方だと何となくしっくりしない感じがするのだ。

当時は東京タワーが完成したばかりで、やがて到来する高度経済成長のかすかな予兆はあったものの、新幹線どころか未だ蒸気機関車に引かれる東北本線の夜行普通列車で上野駅を発ったが、当初からこれといった計画も無く気の向くままに宿泊地を決める、いたって大雑把な旅の始まりだった。

最初に行ったのは裏磐梯の硫黄鉱山に近いひなびた温泉で、もう名前も忘れてたがお百姓さんが農閑期に湯治に来るような安宿に泊まった。一応朝晩の食事は出るが、温泉旅館のイメージとはおよそかけ離れた粗食で、それがかえって旅に出たという実感を持ったのだから若さとは良いものだ。

翌日硫黄鉱山や付近の山を歩いてスケッチをしたりして夕刻に宿に帰って部屋に入ると、男が一人寝そべって煙草を吸っている。訊いてみると相部屋だとのこと宿が勝手にそうしたらしい。まあこういう所だから仕方ないかと思って温泉にのんびり漬かってから部屋に戻ると、布団が三人分敷いてある。男にこれは何だということ、同宿の女が一人来るのだとのこと、さすがに腹が立って相手の部屋に行ってくれという何と何を勘違いしたのかも一人女を呼ぶというので遂に私も怒り心頭に発し、そういう問題じゃないと怒鳴って男を追い出した。私とて決して聖人君子ではないが、同宿の女たちというのは「あえて区別すれば元は女」という代物で、傍に寄るのも願ひ下げであった。

日本人は元来男女関係についてはおおらかな民族だったと言われるが、都会を離れた地方では今でもそうなのかも知れない。

この一人旅の思い出はいろいろあるが、いずれにしても貧乏でも「若さ」という何物にも変え難い財産が有ったことをしみじみと感じる今日此の頃である。

政府は、2016年までに訪日外国人旅行者を1800万人に増やすことを目標にし、その第一歩として2012年に過去最高の年間900万人達成を目指している。今年6月には、2010年比でプラス1.4%となった勢いを踏まえ、目標達成は可能であるとの希望的観測が出ている反面、900万人実現は難しいのではないかと、という見方も根強い。(加納)

訪日外国人観光客推移(万人)

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
835.1	679.0	861.1	621.9	?
(上半期1~6月)		420.2	283.2	405.2

脱「原発依存」の動き強まる

福島原発事故から1年4か月、原発依存のエネルギー政策を改めようとする動きが強まっている。大江健三郎さんら知識人も参加した原発反対のデモ・集会は、数十年前の安保反対の動きを思い起こさせる。すっかり大人しくなったしまったような日本社会のなかで、久しぶりの出来事であり、原発問題に社会の関心が集まっている実態を示している。

安い電力を安定的に提供できる原子力発電という謳い文句は、福島事故のあと、次々に覆されつつある。安全性に関する疑問、廃炉の費用、使用済み核燃料の処理等を考えると、決して『安全ではなく、安くもない』という認識が、定着しつつある。

東京都が東京湾沿岸に10基の火力(ガス)発電所を作る計画を打ち出したり、産業界や自治体が風力発電、太陽光発電を促進する動きも、各地で見られる。かつて、水力、火力、原子力の発電単価を比較し「原子力が最も安い」と言い続けていた電力会社や政府の広報も、ここへきて影が薄くなっている。自然エネルギーや新火力発電の単価は下がる傾向にあるし、原発のそれは高くなり、コストが接近する時期も近いのではないかと。

政府が、大飯原発を再稼働させるにあたって「原発抜きでは必要電力が確保できず、産業界や国民生活に多大な影響を及ぼす」と言っているが、当面はそうかもしれない。だが、電気ドブプリ漬けの消費者意識も、変化しつつある。原発なしでもやっつけける日が、近づいているのではないだろうか。(加)

世界遺産物語 ㊹

世界遺産 X 新・世界7不思議・・・ペトラ遺跡

この6月宿願だったペトラ遺跡へ出かけた。2000年以上も前に建設された、この世界遺産は一時期人間の視界から隔絶されていたが、19世紀初頭スイス人探検家とその存在を公表して以来、今日では世界中の観光客の心を驚づかみにしている。

ペトラの街から切り立った谷間の砂地を、馬車やラクダの世話になることもなく、小1時間も歩くと、切割りの間からペトラ遺跡群最高級の岩の建造物が忽然目の前に神秘的な姿を表すのである。これこそ数々あるペトラの古代遺跡群のハイライトで、一躍映画「インディーズ・ジョーンズ」でも知られるようになった、あの岩壁に彫られた荘厳なエル・カズネ(宝物殿)である。

「ペトラ遺跡」は、2007年7月7日「マチュピチュ」や「万里の長城」とともに、「新・世界7不思議」のひとつにも認定された。現在ペトラ遺跡へは各種のツアーが催行されているが、首都アンマンから幾分遠隔地(約200km)のせいもあって、行きたいけれど行きにくい原因のひとつにもなっている。

1967年第3次中東戦争直後、ヨルダン軍兵士に突如身柄拘束されて以来45年ぶりにアンマンを訪れたこの機会に、ペトラへ足を伸ばしてみた。幸いペトラ見学のお陰で、「新・世界7不思議」もすべて訪れる幸運に浴することにもなった。話題のエル・カズネは流石に岸壁に彫られた巨大な秘宝だけに、想像を超えるパワフルなエネルギーが全身に迫り、その迫りにしばし圧倒された。

ペトラ遺跡群の立地領域は広大である。山上の古代修道院へ向う参道?から周囲の崖面を見回せば、まるで屋外博物館の中にいるようだ。数々の宝物殿、城塞跡、洞窟内の絵画、貴族の墳墓から庶民の土葬の跡地まで、恰も禁断の領域へ足を踏み込み古代アートを独り占めするかのごとくである。

もの珍しさも手伝って、登り道ではロバの背に乗って見たが、このロバが断崖に沿った細道を体を揺すりながら登っていくのだ。とても景観を眺めるゆとりもなく、振り落とされまいと必死にロバの背にしがみついている不甲斐なさである。

ペトラ遺跡は、一般的にガイドブックやTVで紹介される目玉のエル・カズネだけだと思われがちだが、全遺跡群は遥かに壮大で歴史的にも文化的にも、考古学的にも、また地形的にも、実に奥が深いのである。ロバと自分の足で息もぜいぜい登って初めて、漸く修道院にたどり着くことが出来る。振り返って修道院から谷間を通して見下ろすペトラ周辺の乾いた大地は、突き抜けるような紺碧の空とも相俟って、インテリで遅かった古代ナバテア人の生活空間をいやがうえにも想像させてくれるのである。

考古学へのノスタルジアを思い起こさせてくれた「世界遺産」への幻想的な旅だった。(近藤節夫)

日中国交回復40周年記念事業に参加！

J N協会会員 大塚武夫
(アジアインバウンド振興会評議員)

訪日旅行(インバウンド)を取り扱う会社が集まり、設立したNPO法人アジアインバウンド観光振興会(AISO)は設立6周年を迎え、現在旅行会社40社と100社に及ぶ旅行関連会社が加盟し、インバウンド増加に向けて様々な活動を行なっております。

昨年度は、観光庁関連の事業4件に参画できました。今年は日中国交回復40周年を迎え、上海市及び日本国の上海領事館が合同して行う「ジャパンエキスポin上海」への参加日本企業の募集を上海市より付託を受け、AISOの組織を挙げての参加を進めております。これは政府が進めている「平成24年度 中国における海外現地ALL JAPAN連携『観光事業』促進活動」の一環でもあります。

時折りしも、観光庁は中国から日本への観光客増加を図るため、中国人の目線で観光交流の促進を図る企画コンペを実施中です。AISOはそのコンペに参加することにしています。しかし、残念ながら力不足を痛感させられることが多いのが実情です。そこで、こうした観光促進(とくにインバウンド)するにあたって、10年以上の歴史と経験を有するジャパンナウ観光情報協会と連携して企画立案・事業の推進を行えば、これまで以上に我が国の観光振興に役立てると感じています。